



創立 2011年6月17日
SAITAMA UKISHIRO
JAPAN

埼玉浮き城プロバスクラブ

2021.11.19 発行

No. 125

例会日 毎月第3金曜日 ホテル ガーデンパレス 熊谷市佐谷田 3248 TEL048-525-7777
事務局 〒360-0823 埼玉県熊谷市榎町 106 (幹事 岡安眞也方) TEL・FAX 048-521-3359
会長 根岸 友憲 副会長 木島 隆夫 幹事 岡安 眞也 情報委員長 椎橋 俊夫

本日のプログラム

第126回 通常例会

国歌斉唱・プロバスソング斉唱(プロバス賛歌)

会長挨拶

会長 根岸 友憲

八王子プロバスクラブ会長挨拶

河合 和郎様

幹事報告

幹事 岡安 眞也

委員会報告・同好会報告

バースディ報告と会員スピーチ

森田義弘(8月)・小山 博(9月)・赤松 明(9月)
高橋晋作(10月)・鴨田 武(10月)・藤倉新平(10月)
小島敏男(11月)・根岸友憲(11月)

卓話 「埼玉浮き城プロバスクラブ創設のころ」

顧問 渡邊 栄一

ハッピーボックス披露

例会委員 中島 捷二

閉会

例会副委員長 藤倉 新平

<第122回例会出席率 会員 35・出席 30・出席率 86%>

会長スピーチ

会長 根岸 友憲



新型コロナウイルスが日本に蔓延し猛威を奮ってから約600日が経過したと言われています。しかし此のところ流行も収まる気配です。

蔓延の原因はいぜんはっきりしませんが、とにかく一安心です。しかしマスコミ等の報道機関で第六波の流行が危ぶまれており完全な終息には至っていないようです。

当クラブも本来ならば、11月は親睦委員会の主催による移動例会で研修を兼ねた家族同伴によるバスツアーが行なわれてきましたが残念ながら今年も昨年に続き中止せざるを得ない状況となりました。しかもコロナ騒動のなか8月・9月・10月の例会も行うことが出来ず会員の親睦と交流を主目的にしてきた当クラブにおいては数々の制約がはいるなかでの活動に皆様方も苦慮していることと拝察しております。

そんな中10月31日に任期満了に伴う衆議院議員の総選挙が行われました。当初の予想では自民党が単独過半数を確保するのが難しいのではと言われていましたが、結果を見れば議員数のほとんど減らすことなく自民単独過半数を確保しました。また逆に大きく議員数を増やすのではないかと見られていた立憲民主党は前回より14議席の減少となる結果に終わりました。これから自民の安定政権が続くと思われるなか、どんな具体的な政策が行われるのか見守っていきたいと思います。

今月11月1日(月)にもものつくり大学の開学20周年記念事業式典に当クラブも招待を受け会長はじめ幹事、前会長、顧問の4名で出席して参りました。

その後マスコミ等でお馴染みのエコノミスト寺島実郎氏の講演会を拝聴することが出来ました。

現在の日本の時代認識とものつくりの重要性について幅広い視野の講演を頂きました。いろいろのデータを基とした解説がとても解りやすいものでした。戦後の日本の高度成長期は原材料を輸入して、ものづくりの技術力で世界一の製品を作り出し国内外に販売して成長し続けてきたとして結論づけています。その結果2000年代には日本のGDP(国内総生産)の世界に占める割合は14%その時点でアジアは7%でした。それからたった20年後の2020年には日本のGDPは6%に落ち、アジアは25%に向上しました。日本はさらに、これから下降を続けるようです。

日本が主力にしてきた産業資本主義から世界は金融資本主義やデジタル資本主義(IT革命)により、GAFAMと呼ばれる大企業の出現が世界経済を牽引しています。日本はこれからどうするか、ものづくり日本の目指すところは農業生産システムと医療防災産業を構築し、ものづくりを活かすことが大事と結論付けて講義が終わりました。

日本のものづくりの大切さに言及されたものと思います。現状このままコロナが鎮静化し通常の生活に戻ることを心より願いながら皆様方の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

2021年10月 第4回 幹事報告

幹事 岡 安 眞 也

1. 11月、当クラブ活動について

新型コロナの爆発的蔓延にありましたが、10月理事会にて現状を総括し、確かな着実に至ったと判断された事、ご報告致します。特に、今、11月初にあって、万人相当の参加イベントさえ、規制解除の当局表明が見込まれると、各位ご高承の通りです。

ここにこの状況を踏まえ当クラブ活動諸事、下記のように理事会にて策定致しました。

i 11月19日（金）実施計画の「移動例会」中止：
簡明に謂わば小旅行とは言え、時期尚早とし、理事会一致して、中止と致しました。

ii 11月19日（金）通常例会実施
上記「移動例会」中止に替えて、4ヶ月ぶりに例会開催と致しました。そのプログラムは、当誌ページ1に表示の通りで、久々の交歓お楽し

み頂けますように・・・。

尚、今後の行事・活動につき、新型コロナ禍状況を注視し、実施事項・実施可否を理事会にて「安心・安全」を旨に慎重審議致します事付記します。

2. ご連絡 等：

i 全日本プロバス協議会行事 参画：

2022年11月24日、全日本プロバス協議会第10回総会及び八王子大会開催にあって、コ・ホスト役として、当クラブ参画と致しました。

関連して、11月19日（金）例会に東京八王子プロバスクラブ会長 河合和郎様・委員長 一瀬明様が出席されます。心から歓迎申し上げます。

ii 退会者報告：

10月4日付け 小川栄一会員 退会届受理を茲許報告致します。

会 員 投 稿



作 品 紹 介

木 島 隆 夫

私の創作活動は、年数回の大規模展並びにグループ展への出品で数点の大作と十数点の小品をコンスタントに制作しています。しかし必ずしも新作のみの出品ではなく、未発表のみの制限がなければ2～3回の出番もしばしばです。個展開催年ではまとまった小品を増産、時には突貫工事と相成る場合もあります。今回、直近に開催された「2021CAF・NEBULA展」出品作品を紹介します。この展覧会は、1987年に「埼玉美術の祭典」1989年「CAF(Comtemporary Art Festival)展」、2004年から「CAF.N(Comtemporary Art Festival Nebula)展」と発展、現在に至っています。国内外作家が集い年1回埼玉県立近代美術館で開催(11月)しています。コロナ禍が克服されかつての日常が戻ったならば是非お運び戴ければ幸いです。

題 名 静謐の精析・諸法実相考 R3-8A

大きさ 142×110(cm)

技 法 水彩紙、シルクスクリーン、コラージュ



図録コメント

大乘經典『法華經』に諸法実相の教えがある。総ての存在をあるがままに見透すこと、我を離れて虚心坦懷に世界や事象と接する中で、真実のすがた[相]に邂逅する、それは正に寂滅の境地、凡夫の私にとって三劫の彼方である。作品化を試みる傲慢と僭越をお笑い下さい。



オリンピック、パラリンピックが 終わって

武 笠 勇

開催か、再延期か、中止かと、各論議の結果、2020東京オリンピック、パラリンピックが、1964年以来57年ぶりに開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響下での、史上初めての無観客の中での、開催でありました。206の国とパラ163の国、史上最多の参加でした。

オリンピックがいつの時代に始まったのか何回目なのかは知らないけれど、物心ついた子供のころは、ラジオできくか新聞で読むぐらいでありました。すでに約半世紀にもなりますがテレビでの映像からの観戦、オリンピックがより身近に感じるようになりました。開会式の演出、セレモニーは素晴らしかった。

さて、この度の、賛否両論の中での、オリンピック、パラリンピックの開催、アスリート、大会役員、ボランティアのみなさん有難うございました。大会が大きな事故もなく無事に終わって本当に良かったと思いました。終了後、私の感想ですが、感動、感激、勇気、感謝の気持ちでいっぱいでした。

日本の選手、583人予選、決勝を勝ち上がってきたアスリート、日夜たゆまぬ練習、継続する努力、怪我との戦いに悩まされた日々、その日、その時間に持てる力を最高の状態にして臨まなければなりません。そして結果は一瞬にて決まります。

メダルを獲得する人、入賞する人、残念ながら参加に終わる人、様々であります。戦い終わっての感想、インタビュー、複数回出場経験のある選手や、20歳にも満たない、若い選手の話し方、一芸に秀でる人は全てに秀でるといいますが本当に感動します。選手生命を断たれるかのような大病を克服したアスリート、スポーツなどは到底出来ない様な重度の障害をもつ

人の言葉、自分も障害者になり、励まされ勇気をもらい、負けじと頑張らなければと思い感激で涙がでるおもいで聞いておりました。

この大会、日本の国が一番熱い7月に何故、前回の様に爽やかな、日本の秋10月に開催出来なかったのか、競技場に金がかかり過ぎていないだろうか、始まる直前にいろいろな、女性に対する差別発言や演出に際してのトラブルや、大会役員の交代等々がありました。反省することがらも多々あると思いました。また、大会、競技の結果についての報道、新聞等の対応について、出場する選手すべてが勝とうメダルをと、目標に練習を重ねて出場しております。出場する前から各選手の予想や評価をしておりますが、競技によっては、メダル取るのが当然当たり前の様な、予想、報道しているテレビの解説者スポーツ解説者がたくさんおりますがそれはそれで自由なことです。レジェンドと言われていた体操の選手や、陸上のチーム、残念なことに落下、バトンミスによる失格、がありました。

気の毒、可哀そう、運がわるかったと同情いたします。しかし、競技が終わってから、どうでしょう一生懸命なアスリートの名前がチームが何か悪いことでもしたかのように一言も一字ものらない、ねぎらいの言葉皆無淋しく残念に思いました。戦いに勝ちし者は、負けし者に、喪にふくす、とゆう言葉がありますがせめて、マスコミ、メディアは、その労、努力、のねぎらいの言葉があつて欲しかったと思いました。



サンデー毎日もまた楽し！

畠 山 恒 雄

サラリーマン生活が終わって今年で18年になります。昭和35年(1960年)に学校を卒業し、東京に本

店のある会社に就職して、平成15年(2003年)まで43年間務めました。在職中、大阪支店と神戸支店へ転勤しました。この間が通算して9年間でしたので、残りの34年間は行田から東京へ通いました。毎朝7時前に家を出て帰宅は夜中になることも。過ぎてしまえばあつという間の43年間でしたが、今振り返ってみるとよく通い続けられたなあと思います。43年間病気をした記憶もありません。

(4) 埼玉浮き城プロバスクラブ会報

ということで退職してからの18年間サンデー毎日の日々を送っております。これからも続きます。毎日がお休みということですが、毎日退屈したりすることはありません。必ずやることがあります。

退職してすぐに地域の自治会の役員を仰せつかりました。それまでは仕事が忙しいを口実にノートタッチだった地区自治会の仕事に携わることになりました。自治会の総会、夏祭りなどを通じて地区の方々とも顔見知りになりました。

地元の小中学校で学びましたので、同窓会（同級会）の幹事もやりました。同級会は75歳でもうやめようということで、今はやっておりません。

平成23年（2011年）プロバスクラブにお誘いがあり入会させて頂きました。行田生まれの行田育ちの私ですが、大学卒業と同時に東京へ通いましたので行田は夜寝に帰るだけの状態でした。プロバスクラブに入会して、地元の名士の方々と出会い、親しくお付き合いさせていただいていることは私の誇りでもあり、楽しみでもあります。

平素は庭の草取り、芝刈り、掃き掃除、野菜作りなどをして過ごしております。雑草を退治したり、芝生がきれいになったり、野菜がいっぱいとれたりして、よかったなあと自己満足して楽しんでおります。

現役時代は病気とは無縁でしたが、経年劣化で歯科、眼科などを含めれば片手では数えきれない程の病気で病院通いの回数もバカになりません。昔は無病息災でしたが、今は多病息災？ですが、一応元気にしております。

昨年からのコロナ騒ぎで外出自粛となりました。それまでは、月に一、二回は上京してサラリーマン時代の友人、学生時代の友人たちと一杯やったりしておりましたが、昨年二月に上京して以来東京へ行っておりません。

緊急事態宣言が解除され、コロナウイルス感染者もだいぶ減少してきましたが、これからまた6波（ロッパ）があるかも？油断はできません。一日も早い収束を祈るのみです。



政権選択選挙を終えて

椎 橋 俊 夫

本会報の空きスペースが出てしまい、急遽原稿を作成しました。10月31日衆議院選挙が行われ、熊谷市では市長選と市議会補欠選挙が同時に行われました。

11月3日BSフジ プライムニュース、2時間番組を見ました。出演は伊吹文明 自民党元衆議院議員・御厨貴 政治学者 東大名誉教授・松井孝治 官僚出身 慶応大学教授 元民主党参議院議員の3名。

事前の予測は、「自民党・公明党を併せてギリギリ過半数を確保」。蓋を開けてみれば自民党の圧勝でした。専門家の詳しい解説は一晚寝て起きたらほとんど思いだせない。伊吹さんの話はさすが長年選挙を勝ち抜いて来た人で、その都度の選挙民の行動・心理を肌感覚でつかんでいる。素人の私でも良く理解できた。今回の選挙では、立憲民主党が共産党と候補者調整を強力に進め、野党候補を一本化したことは自民党に取っては脅威で、大物議員が落選したが、

比例代表で健闘した。全般的に見て自民党の得票率は落ちている。立憲民主党が共産党と協力体制を強めた事が災いし、反自民票が維新に流れた。枝野さんはせっかくのチャンスを逃してしまったとの事。

自民党幹事長甘利さんは比例復活という前代未聞の出来事。収賄疑惑が尾を引いたのと、総裁選のしこりが影響したとの事。私的に考えれば、総裁選で神奈川県民の河野さんを押した人達にしては宿敵であり、こちらの要因の方が大きいと思う。

私は地方選挙は人物本位。国政は外交と防衛だと考えている。小選挙区は地元の候補（地元愛）、比例代表は枝野さん「外交と防衛」は大丈夫ですか、さすがに党名は「立憲民主」とは書けなかった。

候補者の質に上中下があると同様に投票者の1票の質にも上中下がある。良く勉強をし、確信を持った票は「上」、盲目的に政党支持が「中」、人に頼まれた、良く解らないけどみんながそう言っている、人気のある人が応援演説に来た、が「下」とすると「下」が以外と多いように思える。

接戦で当落が決まった場合「下」の票が勝敗の行方を握ってしまったら、日本の民主主義も怪しいものだ。

次回例会案内 12月17日(金) 第127回 通常例会 卓 話「未 定」 森田 義弘会員